

平成27年度指定管理者モニタリング評価表

施設名	ユーフォリア千里浜		
指定管理者	株式会社 共立メンテナンス		
住所	羽咋市千里浜町タ1番地67	選定方法	公募
指定期間	平成26年4月1日 ~ 平成31年3月31日		
指定管理料	35,400千円 (平成27年度決算額)		
評価担当課	生涯学習課		
年度重点目標	施設の効率的な維持管理及び適切な人員配置を行うことで、利用者の利便性を図るとともに利用者の増加を図る。また、サービスの質を落とすことなく経費の削減を図り、健全な経営を行う。		

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考
		中間	年間		
1 職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A	A	聞取り書類	人員配置計画書にて確認、名簿を受理契約(1年)社員3人、パート10人
	事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A	A	聞取り書類	定期的に研修を実施 研修マニュアル書類にて確認
	指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A	A	聞取り書類	再委託契約書にて確認
2 施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A	A	書類	事業計画書にて確認
	整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	B	B	現地	現地確認
	法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A	A	書類	汚水処理・水質検査・消防関係電気工作物等点検書類確認
	保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A	A	聞取り 現地	迅速な対応に努めている
	備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A	A	書類	台帳確認
3 サービス向上への取組状況(アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	B	A	聞取り	ホームページ確認
	特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A	A	聞取り	事例なし
	利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A	A	書類	アンケート確認
	苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	B	A	聞取り 書類	苦情処理シート作成で対応
4 防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A	A	聞取り 書類	訓練 年2回(6月、11月) 事故防止マニュアルを作成
	リスクに応じた保険等に加入しているか。	A	A	書類	総合賠償責任保険に加入

評価項目	評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考	
		中間	年間			
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか	A	A	聞取り書類 管理は4人でしている 職員研修実施	
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A	A	聞取り書類 月次報告書確認	
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	B	B	書類 収支状況の報告書で確認 昨年度より微増	
		定められた料金を適正に收受しているか。	A	A	聞取り 条例を遵守	
7	施設利用状況	前年同期と比較し、利用者数・施設稼働率等に著しい差異がないか。ある場合は、その原因は何か。	A	A	書類 利用状況報告で確認	
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A	B	書類 毎月10日までの報告を指導	
9	アンケート調査意見及び対応	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患者の入館を制限すべきとの意見には、疾患者の自宅を訪問し理解を求め、完治後に入館を許可。その後の苦情はなし。 ・いつも午後8時ごろ利用させてもらっていますが、サウナマットが濡れていて出きれば8時ごろの交換をお願いしますに対し、サウナ室を時間帯により確認を行いサウナマットの交換を行った。 				
10	今後、検討・調整が必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・熱源を電化システムに改修したため、設備の管理運営の効率化を図り、省エネ及びCO2削減に努める。 ・接客研修の充実を図り、接客対応を含めサービスの質をより向上させる。 ・レストランの増収を図るため、メニューの創意工夫とホームページ等に掲載しPRに努める。 ・施設の老朽化に伴い修繕箇所が多々あることから、優先順位を定め計画的な修繕が必要である。 				
11	今後の管理方針	<ul style="list-style-type: none"> ・熱源の電化に伴い、プール水や浴槽水の温度低下を防ぐため、水面をシートで覆う等保温に努める。 ・二酸化炭素の排出を抑制するため、冬季間の露天風呂使用を制限する。 ・夏場、冬場及び中間期の空調機器の運用や、設定温度の適正化を図る。 				
総合評価	中間評価		年間評価		平成26年度	平成25年度
	A		A		B	—